

吾妻中学校だより

第4号 吾妻中の庭：たすきをつなぐ

6月11日 文責 富樫

○ 自ら学ぶ生徒

○ 心豊かな生徒

○ 体たくましい生徒

熱い想い

生徒たちは、普段の日の放課後や土日の練習や練習試合と時間をかけ大会に臨みました。北会津中体連で吾妻中の熱い頑張りは素晴らしかった。しかし目標としていた結果とはならず、悔しい気持ちもあったと思います。この悔しい気持ちを持つということが大切で、人の痛みが理解できたり、チームメートのすばらしさがわかったり、と学ぶことも多い1日であったと思います。この経験を生かして今後の生活面や勉強面でのがんばりにつなげてほしい。



なぜ、学ぶのか

- なぜ学ぶのか？「希望する学校、希望する会社に入るため」もちろんこの答えは間違っていない。
- しかし、サラリー増神話、人口増神話が崩れ、予想を超える少子高齢化、国際化が進展する中で子どもたちはどう生きていくのか。今まであった大学や会社が無くなる時代を何を目標にしていくのか。
- 子どもたちの夢の実現のために。

進路（自己実現のための第一歩）

- 3年生が入試に向けて具体的な学習が始まりました。今年度から県立高校の入試制度が変わります。
- これまでのI期選抜のような推薦制度は廃止され、志願者全員に学力検査が行われるので入試当日の学力検査の出来が合否に大きく関わってきます。もちろん1、2生も進路の学習は始まっています。
 - こんな時代だから「生き抜く力を身に付ける」・・・コミュニケーション能力や、経済的な自立のためにどんな仕事を選択していくのか。自分に合った職業は何であるのか。今、社会で求めてられる職業は何なのか。例えば、AIエンジニア（プログラムや情報分析ができる）や高齢化社会に向けてコンピューターではなく、人間にしかできない仕事などが重要視されいくなど。より良い選択をしていける能力を身に付けさせていくために学校として、保護者として何ができるのか。

学校の責任

- 学校としては、どんな社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値があるもの」（不易）と社会の変化に合わせて、その時々状況に踏まえつつ、考えたり判断したりする力（流行）の両方の力を付けていく必要がある。
- 学校には、どんな進路にも耐える学力とそれぞれの個性を発揮させることが求められ、それに加え保護者が子どもの自己決定をサポートできる情報を提供することが求められている。

保護者の責任

- 将来の選択肢が広がり、自己（生徒）決定が求められる。
 - ・とは言っても子どもたちの判断力、責任能力はまだ不十分で保護者のアドバイスが必要です。
 - ・学校の情報と保護者の方の情報や経験をもとに子どもと時間をかけ話し合いをする。

ちょっといい話（生活編）

吾妻中はルールが少ない。なぜか？ルールがいない学校であるからである。集団生活するにあたって何か不都合がでてきた場合にはその不都合を改善するためにルールが必要になってくる。でも今の吾妻中にはいない。お互いを尊重し迷惑をかけない生活ができるからである。社会には多くのルールがありそれに反すると罰則がある。

人の話は目を見て聞く。自分が話しているとき、よそを見て話を聞かれたことを考えると当たり前のマナーだ。吾妻中の子どもたちは身についている。小さいときから教えられ自然とできている。